

2

January 2003

素顔の阿蘇を探す旅。

“●”はすべての原点、“●”は蘇生。
阿蘇は原点に戻って復活する場所。
真夏の阿蘇に触れ、
自分自身を探してみませんか。



大陸

Origin



阿蘇遺産

SERIES 2

折り重なる草原と石畳の溪流トレッキング

太古の昔から、阿蘇の山は守り続けられてきた。阿蘇遺産は、自然の恵みと歴史の重みを感じながら、新たな形で阿蘇の魅力を発信していきます。阿蘇の情緒をASOの山と谷の風景と合わせて、秋の阿蘇を堪能してください。



「みなさんこの木の名前を知っていますか？」
「マユミですわ」
「でも、このマユミは背が小さいですね。だからこのマユミは？」
「コマユミ」
「じゃあ、この小さいアザミは？」
「コアザミ」
「それじゃ、情緒がないから…」
「ヒメアザミだ！」

草原の中に続く牧道のような所を車で半分ほど行くと、牛たちが草を食んでいるところに着き、車を降りる。牛たちの横を通りすぎ、野焼きの際の延焼を防ぐ阿蘇人の知恵「輪地切り」の中を進む。さっそく、草の中に野草がちらちらと見えてくる。鮮やかな黄色の花が目を引き、「アキノキリンソウ」、真っ白な花の花弁がかわいらしい「ウメハチソウ」、ラックキョウの原種と言われ、つぼみは紫色のグラデーシオンが美しい「ヤマラッキョウ」、秋の代表的な野草の歓迎に、これから出会うであろう未知の植物たちを思い、心が踊る。

大地の恵みが注がれ、阿蘇の宝が根を張る場所。

てきたものの、途中、深くなっているところもあるが、歩くところの平均的な水量は3〜4センチメートルほど、子どもの頃、水溜りを歩いたようにバシバシと音を立てながら上流へと上っていく。

キングツアーの案内人であり、自然公園指導員でもある高村貴生さんと湯浅隆雄さんのような阿蘇で生まれ育ち、自然の中で遊び、根を張って生きてきた阿蘇人にも、阿蘇の植物から感じるものと同じような力強さを感じる。草原を守るための輪地切りは、直線距離になると、静岡県まで届くほどの距離があるという。また、毎年春には、広大な草原に火を放ち、大掛かりな野焼きをすることでも草原を守ってきた。一方で、溪流には足を踏み入れず、手つかずの自然を残している。必要箇所には人の手を入れるが、必要以上のところまでは踏み込まない。何万年も前から自然と付き合ってきた阿蘇人の知恵は瞬々と、現在まで受け継がれてきた。自然そのものも阿蘇の宝だが、現在の豊かな自然を守ってきた阿蘇人の存在自体も、貴重な阿蘇遺産なのだ。



案内人の湯浅隆雄さんと高村貴生さんが案内される阿蘇の草原。阿蘇の宝が根を張る場所。



阿蘇の山と谷の風景。阿蘇の宝が根を張る場所。

Aso Heritage
阿蘇遺産
折り重なる草原と石畳の溪流トレッキング



阿蘇の山と谷の風景。阿蘇の宝が根を張る場所。



案内人の湯浅隆雄さんは、阿蘇の宝が根を張る場所を案内してください。

スローな 阿蘇づくり



長陽村阿蘇の立ち寄り農家、後藤サキさん宅。村でも有名な漬物加工の得意なおばあちゃんだ。



南郷谷のスローな阿蘇を堪能する

南郷谷は高森町、白水村、久木野村、長陽村の4ヶ町村が各1台ずつ役場の公用バスや福祉バスを循環バスとして走らせ、高森駅を5便、長陽駅を5便、合計10便で南郷谷を一周した。バスガイドには町内の職員や高森観光協会職員がいたり、利用者に案内を行った。サイクリングインは、熊本駅からJRで自転車をのせ、立野駅で南阿蘇鉄道に乗り換えて1口1便、客車1両に15台自転車を積んで走らせた。

南郷谷は美しい高森湧水トンネルや全国名水百選に選定された白川水筋を巡る「名水めぐりサイクリングコース」、久木野村のそば道場や長陽村の北山山麓の渓谷を巡る「そば体験・渓谷サイクリングコース」の3コースを用意。サイクリングに参加した人達は「3ルート全部廻り、四季の森温泉にも入った。それでも時間が余った。湧水トンネルのウォーターパールや白川水筋の郷土料理の試食がよかった」など、満足そうに話してくれた。

さて、南阿蘇のおもてなしの白眉は、長陽の後藤サキさん宅。温かく迎え入れてくださった居間のテーブルには10種類以上の漬物がずらりと並び、自分の畑で取れた野菜を自分で漬ける。塩漬けや酒味漬けにしたり、時には自家製味噌で漬けたり。梅干、ラッキョウ、高菜漬け、味噌漬けのほか、水あめからジュースも手作りしてしまおう後藤さん。「私はだれより賢いお母さんをしていてと思う。都会の人に、自分の手で、安心して食べられる、自分の食べものを作る楽しさを伝えたかったか



一の宮町製菓にある志賀食品。阿蘇の名物でもある「たかな漬け」などいろいろな漬物を生産販売している。



一の宮町製菓にある地産万十豆。たかな漬物などめずらしい漬物も味わえる。



阿蘇神社横を流す神町池。池にある手作りのフォトギャラリーも案内する高本博史さん。



一の宮町手野(ての)の立ち寄り農家、中野スイさん宅。手づくりの漬物やカボチャの煮込みが並ぶ。

村製菓では和菓子体験も行われた。阿蘇町にはこの中地域域のほか、内牧とその周辺で「まち」と田園風景を楽しむゾーンを設定した。サイクリングコースである農村公園あひか周辺ではのんびり自転車を走らせ内牧方面に向かう姿も見られた。このあたりは、阿蘇五岳を背景に雄大な田園風景がひろがって、そこに北塚本塚などの小山も並んでいる。そこをサイクリングコースが南北一直線に走り、実にすばらしい景観スポットでもある。内牧に入ると、かずら下房のギャラリー、あか牛の牛片屋輸入雑貨店など地元有志のチャレンジショップが並ぶ。酒店で試飲をしたり、焼酎屋を覗きながら、公共の温泉巡りと併せてまち歩きが楽しめる。内牧商店街から手野の集落へ向かう途中の小嵐山周辺には中通古墳群がある。黒川の堤防に咲きさるうコスモスに埋もれながらサイクリングロードが伸びる。古墳が点在し、外輪山が迫るこのあたりは、阿蘇でも独特の雰囲気を感じ出している。

手野の集落にはいると古代神話が残る国造神社がある。残念ながら国造神社の境内にあった手野の大杉は、平成3年の台風で倒れた。今は、記念の樹木跡が残る。ここ手野の集落の名物おばあちゃんの中園スイさんだ。昔は稲作が中心の農家だが、焼酎づくりが上手で今回、「立ち寄り農家」になっていただいた。お接待はご主人とお二人で、お茶やカボチャの煮込み、ほかほかのお饅頭などが盛りだくさん。立ち寄った参加者の一人は思いもよらない農家ならではののこちそうに、「また来たい」との感想を、また「秤に頼んであるお米は購入できるのですか?」などの質問も飛び出していた。こういった交流から都市住民と農家とのつながりができればと思う。阿蘇神社の門前町界隈では手作りのフォトギャラリーが開設。阿蘇の風景を撮った写真展が行われ、すぐ横の菓子店で作られた「いきなり団子」がお茶菓子として出された。阿蘇神社の参道として賑わったこの辺りは、通りに沿って清らかな水が流く水筋が、水のある暮らしを想はせる。宮地駅では「たかなぼ」と呼ば

れる竹の水筒を、自転車や歩いてくる人に配っている。これで阿蘇神社のご神水や水盆などで水を汲み、サイクリングや町なかの散策に持ち歩くことができる。これも阿蘇に住む人々のもてなしである。また地元の主婦たちが通りの空き家を使い、毎週金曜日に公民館の家庭料理屋「のほな」を営業している。宮地駅から国道57号線を東へ向かうと坂本地区へ着く。この通りは今でも宿場町の面影を残していて、豆腐店では出来たてのとうふが試食でき、また「阿蘇蕎麦」発祥の地である漬物店もある。そして車で数分のところにはりんごやキウイ作り体験ができる農園もある。



阿蘇神社の門前町界隈にある14畳の水盆。清らかな水が湧き出ている。



一の宮町製菓の木村豆腐店。店の前では出来たての「おほろ豆腐」の試食が出来る。

阿蘇カルテラツーリズム 実証プロジェクト2002

スローな

ゆっくり歩く・自転車で走る

阿蘇づくり

ファーストスピードの旅からスロースピードの旅へ

現在の阿蘇の観光は、マイカーや観光バスを使い、旅行雑誌に掲載されている有名観光地を飛び回るファーストスピードの旅が主流。阿蘇に住む人々にとっては、阿蘇くじゅう国立公園の素晴らしい景色を再認識し、世界的なカルテラに住む誇りを取り戻し、阿蘇を訪れる人にとっては、阿蘇の自然や歴史、文化、そして暮らしなど、ツーリズムの資源となる地域の良さを味わうためにも、地元の人たちと交流し、ゆっくりと歩き、自転車で走る程度のスロースピードでの移動にキヤチェンジ。



車で通りすぎたら気づかない、やさしい野の花、雲の色、人の笑顔…。ゆっくり歩いて、自転車こいで、立ち寄って、知らなかった素顔の阿蘇を探す旅に出かけよう。



中世古墳群を背景にした阿蘇の風景。



阿蘇は、ゆっくり過ごす

スローな阿蘇づくりとは阿蘇地域をゆっくりと歩き、または自転車で走る程度のスピードで農村や自然が持つ素顔の阿蘇に触れ、またはエコツーリズムガイド「自然案内人」や地元の人たちと交流し、阿蘇が持つ持っている素顔の魅力を発見するという「阿蘇カルテラツーリズム(実証)」を追究していくプロジェクトであり、そのために交通アクセスをネットワーク化し、新しい交流のしくみを創っていくことである。

自転車でも参加する人のためには、田園や農村集落、商店街を結ぶサイクリングコースを設定し、案内板を設置したり、自転車専用車道に設け、阿蘇へ来て遊ぶことができるサイクリングコース「阿蘇列車」を「阿蘇列車」や「阿蘇列車」の連携で実施から通年運行していくことを検討中。徒歩で参加する人のためには、町内の幹線道路やカルテラ内を地域的に走る循環バスを走らせ、さらに外輪山の町村にバスを接続するなど新たな交通体系も同時に整備していく。

スローな阿蘇づくりの2日間

平成14年10月19日・20日の両日、阿蘇谷・南郷谷のカルテラ内の6町村および熊本県地域政策課、阿蘇地域振興局農家や商店、自然案内人の協力により「阿蘇地域振興アサインセンター」が中心となって「スローな阿蘇づくり・阿蘇カルテラツーリズム2002実証プロジェクト」を行った。農家や商店の方々による手作り万点、漬物、お茶などの阿蘇人のおもてなしや案内人によるトレーニングが用意された。

阿蘇谷のサイクリングコースを走る

19日午前10時8分阿蘇駅にはこのサイクリングコースの利用者が自転車持参で降り立ちサイクリングコースへと走り去った。阿蘇谷からは北側山方面へ走り、峠を越えて「行者洞り」と呼ばれる洞りが延びている、行者洞り付近はかつて36坊52庵と呼ばれたほど、寺院の多かった地域で、洞りの先にある西蔵寺はその中心だった。この洞りの両側には



http://www.asodc.or.jp マップ情報より

清水が流れ、また個人の住宅には何々坊跡などと表示したところもある。金比羅さんの一角では野点のもてなしが行われた。地元の女性達がお茶を立て、地元産の黒もち米と小豆を使い、地元産の菓子屋の人が手作りのおはぎをふるまった。このおはぎのあんを作った、このお

※阿蘇カルテラツーリズムとは、阿蘇の地形的特徴であるカルテラ空間で展開される外輪山周辺の12町村のツーリズム(旅行)を楽しむ阿蘇カルテラツーリズム(阿蘇カルテラツーリズム)と、自然を愛し楽しむ阿蘇カルテラツーリズム(阿蘇カルテラツーリズム)の連携ネットワークの総称。



ASO Design Center Information

(財)阿蘇地域振興デザインセンターは阿蘇郡12町村の地域づくり、観光振興、環境・景観保全、情報発信を行なっています。



節分祭(ゴマ木まき)

阿蘇神社の節分祭は悪鬼邪神を追放せず、祈禱殿の中央に茅(かや)で編んだ藁塚(あしづか)を作り、この世の悪鬼邪神を封じ込めるところに特異性があります。神事が終わると藁塚を解き、ゴマ木とともに参拝者に撒きます。これを持ち帰って焚いて、その火にあたると無病息災です。



期日 ● 2/3(月)

場所 ● 阿蘇神社

お問い合わせ ● 阿蘇神社 TEL.0967-22-0064

大草原うさぎ追い

阿蘇の大草原の中で「チョーイ、チョーイ」と掛け声をかけて、みんなで力を合わせて野ウサギを追う。



期日 ● 2/9(日)

場所 ● うぶやま牧場

お問い合わせ ● TEL.0967 25 2900

阿蘇の火まつり

阿蘇町往生岳には350m四方の日本一の火文字焼きが現われ、同時に夜の野焼きが行なわれる。メイン会場には郷土芸能の披露や物産展が行なわれる。



期日 ● 3/1(土)

お問い合わせ ● 阿蘇インフォメーションセンター
TEL.0967-32-1960

火振り神事

神様の結婚式が行なわれる日です。姫神は宮地から15kmの吉松宮から迎えます。神輿と随行の青年は吉松宮近くの宮山の神木を樫の葉にくるんで、古い儀式を行いながら、夕方阿蘇神社へ帰ってきます。参道に集まった人々は、姫神を待ってたいまつを振ります。



期日 ● 3/24(月)

場所 ● 阿蘇神社 お問い合わせ ● TEL.0967-22-0064

平成15年以降はカルテラ内の循環バスに連係して阿蘇谷から南小国町、小国町、産山村、波野村、南郷谷から高森町の外輪山地域、蘇陽町、西原村への接続バスの運行を計画し、阿蘇地域全体のツーリズム開発を行います。



平成14年に実施的な第1段階として2日間(平成14年10月19日(土)~20日(日))の阿蘇カルテラツーリズムを行いました。今後は徐々に実施の期間を延長しながら、阿蘇カルテラツーリズムに対する地元参加体制(待ち受け機能)や自然案内人の組織を確立し、新しい阿蘇の観光・交流を創出します。

2003のご案内



あなたが選ぶ

「阿蘇遺産」 Aso Heritage

残していきたい阿蘇の風景、伝統、文化、暮らし、自然など、あなたにとっての『阿蘇遺産』を募集いたします。ハガキまたはメールにて応募願います。応募いただいた方の中から抽選で10名様に、人気のトマトケチャップ入り「阿蘇ものがたり」詰め合わせセットをプレゼントさせていただきます。

◆ 〒869 2612 熊本県阿蘇郡一の宮町宮地2402 (財)阿蘇地域振興デザインセンター 内 阿蘇遺産係
または、ホームページ「あなたが選ぶ阿蘇遺産」コーナーまで <http://www.asodc.or.jp>